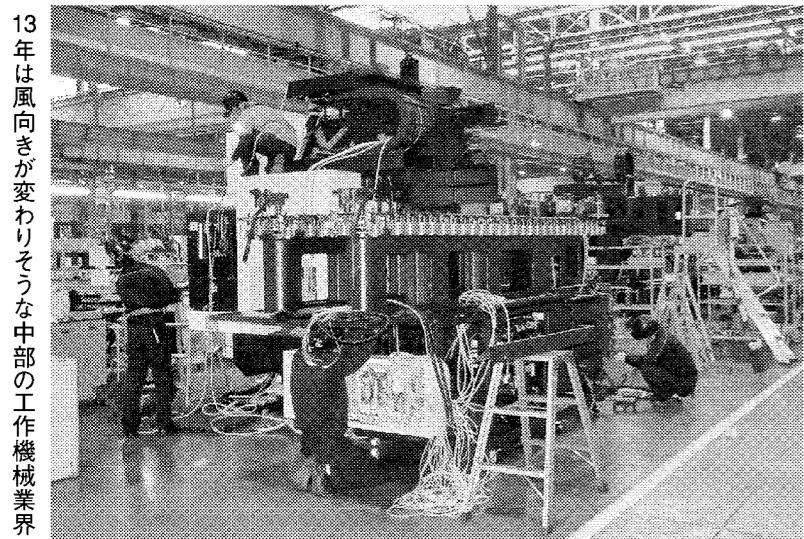


日本のモノづくりを支える 中部の工作機械メーカー



13年は風向きが変わりそうな中部の工作機械業界

愛知県大口町の本社工場のリニューアル工事を進めるオーケマ。本社事務所の眼下には、作業員が鉄骨が引き出になつた建家の中に設備を運びこみたり、新たな建物を建てるため、更地でタワーレーンが鉄骨を組む光景が広がる。

「工事は予定通りに進んでいる。5月から一部稼働を始められるだろう。7月末にはフル稼働する」と同社の花木義磨社長は頬を緩める。

総額約200億円を投じて本社工場を建て直す。同社がこの本社工場再構築プロジェクトを発表したのは12年8月7日。当時は田相場が「ドドド」と田舎高のまつた中。それでも生産の基軸を日本に置くといつ方針はぶれなかつた。

プロジェクトは3期に分けて実施。第1・第2組立場、第3組立工場、部品加工工場の順

に分けた。施工は、

「工作機械は設計、製

造とともに熟練を要する。世界で戦えるプライス

の狙いがある。

「工作機械は設計、製

造とともに熟練を要する。世界で戦えるプライス